

のびのび広場で育つ頌栄の子どもたち —友だちと主体的に心を満たして遊ぼう—

阿部扶早（頌栄幼稚園）

はじめに

頌栄幼稚園は、1889年（明治22年）に神戸市中山手通5丁目に、アメリカ人宣教師アーニー・L・ハウによって設立された、神戸で最も長い歴史のある幼稚園の一つです。ハウは、日本における幼稚園教育の先駆者の一人であり、本園は、日本にまだ幼稚園がほとんど存在していなかった明治期から本格的な幼児教育を行い、そのことは Glory Kindergarten の名で広く海外にまで知られていた。

頌栄幼稚園は創立以来、一貫してキリスト教の精神と F.フレーベルの教育思想に基づいた保育を行い、122年幼な子と共に歩んでいます。「幼児期から心の教育の大切さ」が叫ばれている今日、頌栄幼稚園は、幼児期に於ける「こころ」と「からだ」の健全な発育、発達に役立ちたいと願い、かけがえのない「いのち」の尊さを知る事を大切にしている。頌栄幼稚園の取組みは、子どもたち自身が主体的に活動できるように支える保育の実践にある。

1. 主体的な活動

1)子どもの総合的な発達をめざして

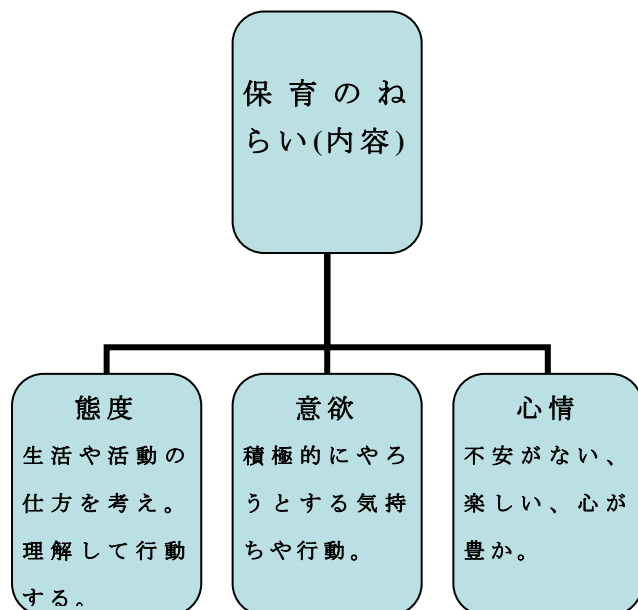


図-1

子どもの総合的な発達は遊びを通して達成される。したがって子どもを保育の主人公にし、子ども一人ひとりを大切に、

大人の価値観を子どもに押しつけない〔遊びの保育〕〔快の保育〕を実践している。図1で示す(心情)(意欲)(態度)をねらいにおき、子どもの発達を保証している。

2)子どもの発達と遊び

子どもの生活は遊びであり、彼らは遊びを通して心身ともに発達するという事は、多くの先駆者によって言われている。それは、子どもたちの遊びが発達に必要な刺激を満たすこと。とくに、群れ遊びはルールを守らないと継続できないこと。楽しい群れ遊びによる脳の興奮は、その抑制機能を体得させることでもあり群れ遊びが長時間継続し発展するためには、適切な判断力や思考力、思いやり、譲り合い、協力などが必要である。

3)子どもの群れ遊びが継続するには

体力や技力、知力、気力のみならず情緒の安定、集中力や継続力とっさの判断力、意欲、ルールの遵守、共同、慈しみ、忍耐、興奮の抑制などが不可欠である。これらを楽しい群れ遊びを通して助長している。

4)子どもの四つの遊び

①手や足を使う遊び。②固定遊具を使用する遊び。③縄跳びやまりつき、竹馬、マット、跳び箱など移動遊具や音楽に合わせて動く遊び。④鬼ごっこやドッチボール、サッカー、すもう、押しくらまんじゅうなど他の子に動かされる遊び。4,5歳では、③と④の遊びが80%、5,6歳では④の遊びが80%程度になるように平素から仲間作りを大切に考えている。

個人の支援案を月毎に記入し、担任だけでなく、保育者全員で子どもが主体的に活動できるように観察している。

さいごに

子どもが自立し自律でき、自主性や主体性が育つためになるべく指示・命令・禁止・許可を避け、子どもを誉め共に感動して、子どもたちが、課題や気づきを解決していく保育を進めている。

頌栄幼稚園

のびのび広場で育つ子どもたち

園長 阿部扶早

～友だちと主体的に心を満たして遊ぼう～

—幼稚園の竹やぶでたけのこほり—



～斜面のぼり～



「こっちへきて」 ゆっくり
用心して友だちのもとへ



友だちと足を踏ん張ってた
けのこほり

—登園直後の外遊び（8：30～10：10）—

毎日繰り返される、素朴な遊びの一場面

サッカー遊び



「パス、パス！」友だちから
のパスがまわってきたぞ！



ゴールの準備も自分たちで



お庭全部がサッカーコート



トライやるのお兄さんにも
負けません！

一輪車



みんなで手をつない
で、よーい・どん！



ぞうりで登園



ぞうりを履くと、姿勢がよ
くなる！

方形ドッジ



自分たちで線を引いたコート
で。狙いを定めて～、エイッ

群れ遊び



花いちもんめ



かごめかごめ



ひょうたん鬼



うんてい